

定山溪キャンプフェスへ運営協力

11月5日に実施された定山溪キャンプフェス（定山溪自然の村主催）に、北海道キャンプ協会として運営協力させて頂きました。関わったメンバーはえぞっぴ（北海道キャンプ協会次世代指導者の方々）とキャンプインストラクターを取得したばかりの私と同期の数名です。当日は雨の予報にもかかわらず絶好のキャンプ日和となり、約250名のたくさんの親子が足を運んでくださいました。

私が担当したのは大人気の薪割りコーナーです。あるご家族がキンドリングクラッカーに大変興味を持ち、薪割に挑戦してくださいました。簡単に割れることに驚き、「私でも薪割りの手伝いができるわ」と奥様が微笑んでおりました。そんな姿を見て「わたしも！」とハンマーを持つ小さな娘さん、お父さんに一緒に持ち上げてもらい、みごとに薪を割ることに成功しました！満面の笑みで嬉しそうにしていた様子が印象に残っています。

このような道具を使えばキャンプのハードルが下がり、誰もがキャンプを楽しめるようになったらいいなと感じさせてくれるワンシーンでした。

他にも各コーナーでは火吹き棒やバードコール、カッティングボードなどアウトドアをより一層楽しめるアイテムを作る体験が目白押しでした。焼きたてピザやメスティンご飯に焼きマッシュマロなど美味しい食べ物も豊富にあり大人も子どもも一日中楽しめるキャンプフェスとなりました。

竹内 由美子（ハピ）



かわら版

北海道キャンプ協会

2023年
冬号

キャンプ道



Campers Guild「野窓」は、北海道のファミリーキャンパーやこれからファミリーキャンプをしてみたいご家族を対象に、キャンプイベント「ういきゃん。」やキャンプギアレンタル、キャンプコーディネート事業として展開しています。

当団体のメイン事業は「ういきゃん。」というキャンプイベントです。お腹を空かせて設営をしてほしくないという思いから、ウェルカムフードを食べてまずはホッとしていただく。親も子も楽しんでほしいという思いから、子どもたちは保育士と一緒に「野遊」。親はひと時離れてホッと一息「野休」。夕食は親子協働で焚き火炊事「野飯」。最後はみんなで焚き火を囲んで「野和」というコンテンツを用意し、参加してくださった皆様に楽しんでいただきました。今年度は安平町と釧路市で開催し、40名の方（うち初めてのキャンプとしてのご利用23名）にご参加いただきました。

今後はNPO法人化し、安平町を中心に「町で遊び、町から発信展開する」団体へと昇華していきます。キャンプイベントに限らず、サウナイベントや道外居住者を呼んで田舎体験するツアーの企画運営、バイオマス燃料のアウトドア活用など、安平町でしかできないこと、安平町からしか発信できないことをリリースしていく予定です。

この度、北海道キャンプ協会主催のキャンプインストラクター講習会に参加し、基礎的なアウトドアに対する知識を得ただけでなく、組織キャンプの在り方や目的意識の明確化、対象に対する配慮など、細やかで多角的なイベントの在り方について学ばせていただきました。上記イベントをブラッシュアップする意味でも非常に重要な学びを得ることができました。また、講習会を通して、様々な仲間や考えに触れられたことが何よりの収穫でした。この繋がりに新しいアウトドアが開けることを期待し、日々事業を推進してまいります。

「自然の中では、誰もが等しくただの人」

Campers Guild「野窓」

代表：榛 伸悟（たいちょう）



New

新コーナー「キャンプ道」について

表紙にある新コーナー「キャンプ道」は、北海道でキャンプ等の野外活動に情熱を注ぐ会員を紹介するコーナーです。「道」という言葉には北海道の「道」を表すと共に、武道や書道の様にある分野を極めていくことの「道」という意味を込めました。

キャンプ道に掲載を希望される方はありませんか？自薦他薦問いませんので事務局までご連絡ください。

北海道キャンプ協会事務局

〒005-0862

北海道札幌市南区滝野 106 番地

（NPO 法人ネイチャープログラムデザイン内）

TEL&FAX 011-596-9170

メール hokkaido@camping.or.jp

URL https://hokkaidocamp.com

Web ページ



Facebook



発行：北海道キャンプ協会広報部 編集：長江 集子

2023 年度キャンプインストラクター 養成講習会を受講して



以前、あるキャンプセミナーを聴講したとき、自分が楽しむキャンプから一歩踏み出して、人を楽しませるキャンプに興味を持ちました。

私はそのセミナーの直後に、町内会の行事としてグループキャンプを企画したのですが、参加した子どもたちにもっと自然体験をさせてあげたいという思いが募り、キャンプインストラクター養成講習会を受ける引き金となりました。

本講習会では、レジャーとしてのキャンプとは異なり、「組織キャンプ」と呼ばれる対象者の成長を主眼に置いたプログラムを運営することが目的で、キャンプの理論や特性、指導者の在り方、様々なアクティビティ、安全管理を学びました。そこで気づいたのは、どんなプログラムにも意図があり、アクティビティー一つとっても、その活動を通じて伝えたいテーマが内在しているということでした。

キャンプはまさに「教育」であり、キャンプインストラクターは「教育者」なのです。

また、こんな気づきもありました。野外での活動プログラムの講習を受けた際、私が小学生の頃の学校行事を思い出しました。その活動は春夏秋冬の年4回、近くの森林を散策して自然とふれあい、四季の移り変わりを観察するというものでした。このような経験は、社会人となった今でも「原体験」として私の根底に生き続けているのだなと実感したのです。

昨今は生活がスマホの中で完結してしまします。生の体験に乏しい現代の子どもたちに、こうした自然の中での原体験を通じて「生きる力」を育み、子どもたちの輝く顔を見るのが私のライフワークとなった講習会でした。

菅野 直之（ガースー）



キャンプインストラクター養成講習会

10月21日 日帰り：札幌市手稲区民センター
10月28～29日 宿泊：札幌市青少年山の家

13名のインストラクターが
誕生しました！
（講習会参加者：15名）

講演会「北海道極上キャンプ」に参加して

北海道のキャンプ場や最新キャンプギアの情報発信を行う web サイト運営、キャンプ動画の YouTube 配信やキャンパー交流を目的としたキャンプイベントも主催している今話題のインフルエンサー川手有沙さんをご存知でしょうか？10月21日、講演会「北海道極上キャンプ」を開催し、川手さんを講師にお迎えしました。会員のみなさんのご参加はもちろん、キャンプに興味を持たれている一般の方々を含め、総勢 39 名が来場されました。この講演会はキャンプインストラクター講習会のカリキュラムのひとつとしたため、講習会受講生も熱心に耳を傾けていました。

実はこの川手さん、数年前にキャンプインストラクター講習会を受講された、私たちの仲間なのです。インストラクターの資格を取得後、そこで得た知識とともに道内さまざまなキャンプ場を訪れたそうです。道内のキャンプ場を独自に調査されマップを作ったり、行ったキャンプ場の特色を細かに覚えておられたり、お話しの中で『キャンプが本当に大好き！』という熱意がひしひしと伝わってきました。生き生きとかつニコニコとお話しされる姿に触発され、来場者からもどんどん質問があがり、まさに参加しただれもが「きっとキャンプが好きになる。もっと北海道が好きになる。」、そんな空間でした。



山元 彩奈（あにゃ）

北海道・東北ブロック会議

岩手県キャンプ協会 30 周年記念事業報告



11月25日、岩手県盛岡市でブロック会議と記念事業が開催され、北海道からは常任理事2名が参加いたしました。前段のブロック会議では、日本キャンプ協会の中期計画「ビジョン2025」の進捗と確認、情報交換が行われました。北海道キャンプ協会は、引き続き東北7県のキャンプ協会と手を携え、人材育成に焦点を当てた実践交流を進めて参ります。

岩手県協会の設立30周年事業は、日本キャンプ協会の平田会長をはじめ、各地のキャンプ協会役員及び会員、県内の青少年教育団体の方々約50名の参加で大変盛会となりました。東日本大震災で被災した子どもたちに対し、関係団体と協働で心のケアを目的とした事業を継続して実施してこられる等、地域に根差した30年の活動の一端を知ることができました。

翌日は、盛岡市の名所を巡るプログラムが実施され、晩秋の盛岡城跡や中津川のせせらぎで自然を感じ、歴史文化館で岩手県の文化や歴史を学び、最後はわんこそばで締めくくりました。岩手県の自然と文化を肌で感じ、岩手県協会の皆さんの温かいお人柄とともに、日本のキャンプの多様性と奥ゆかしさを再認識する2日間となりました。

山田 啓貴（GESO）